2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	自然科学 23p101	担当教員 （実務経験）	柄澤　匠 有 ☐　無 ☑　市内大学大学院に所属		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	【生物学】他の科目の参考となるよう、DNAから生態系まで、生物学の基本的な知識を学ぶ。【物理学】私たちの生活には物理学により説明できる事象が沢山あり、携帯電話をはじめとする物理学を応用した機器も多い。また、介護・医療の現場でも物理学に基づいた考えは欠くことができない。この授業では、物理学の基礎を学び、理解し、それぞれの分野で私たちの生活、介護・医療との関連性を考える。				
到達目標	【生物学】DNAから生態系までの、生物学の基本的な知識について説明できる。 【物理学】数式を理解し、物理量の計算ができるようにする。				
テキスト・参考図書等	系統看護学講座 基礎分野 生物学　第9版 まるわかり！基礎物理　2011年				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	・定期試験を評価 ・各領域でそれぞれ6割以上を合格とする
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	前もって教科書を読んで授業をうけること。学んだことをその日の中に思い起こすこと。疑問点が残ったら早めに解決すること。なお、三角関数については予習しておくことが望ましい。講義を聞いて興味を持った分野は、少しでもよいので関連する事柄を自分で調べてみること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	**【生物学】**：細胞のつくりとはたらき	細胞の構成要素と、それぞれの担っている役割について説明する。
	2	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	「遺伝子」について、そのつくりと、生命体の中で実際に働きを持つようになるまでの道筋をみる。
	3	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	「遺伝子」について、そのつくりと、生命体の中で実際に働きを持つようになるまでの道筋をみる。
	4	生殖と発生	生物が子孫を残す方法と仕組み、および生物の体が形成される過程をみる。
	5	生命の維持と調節	生命体の様々な系・器官とその役割について説明する。
	6	刺激の受容と行動	生命体が外界の情報を受け取り、反応する仕組みについて説明する。
	7	生命の起源と進化	長い時間の中で移り変わる地球環境の中での、生命の進化の歴史をみる。
	8	**【物理学】**：物理のルール	物理で使う数字・文字のルール　物理で使う数学
	9	力学の基本	速度が変わらない運動　途中で速度が変わる運動
	10	物体の運動と力	力の表し方と力の式の使い方
	11	圧力のはたらきと物を回転させるエネルギーと運動量	身のまわりの圧力とその影響、物を回転させる力とつり合いの状態、いろいろなエネルギー　エネルギーの保存
	12	気体の運動	熱の基本的な性質　気体が周囲におよぼす力
	13	波の性質	波の表し方と2種類の波　波ならではの現象
	14	音と光の現象	音の性質と音程の変化　波としての光の性質
	15	オームの法則	電流と電子の流れ　オームの法則

授業科目 （科目ID）	自然科学 23p101	担当教員 （実務経験）	近江谷　和彦 有 ☑ 無 ☐ 農学博士。道内国立大学大学院にて20年以上にわたり教育に携わる経験を有する
対象年次・学期	1年・前期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	情報科学Ⅰ 23p102	担当教員 （実務経験）	赤尾　みどり 有 ☑　無 ☐　IT講習、雇用促進等のインストラクターとして30年以上にわたり従事		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な、情報リテラシーと Microsft Word、Excel、PowerPointの操作方法を身につけることを目的とする。また、それらを利用して、パソコンを有効活用するための知識と操作法を習得する。				
到達目標	①Wordを使ってレポートが作成できる。　②Excelを使って表や図が作成できる。　③PowerPointを使ってスライドが作成できる。 ④情報化社会でのモラルや責任について、自己の考え方を説明できる。				
テキスト・参考図書等	30時間アカデミック　情報リテラシー　Office2016 Windows 10対応				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	・各試験の平均点50% ・提出物50%
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	50%	
	その他	%	

履修上の留意事項	①授業はPC室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習（実習がメイン）③積み重ねの演習が多いので休まずに出席すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	情報処理の基礎（序章、第1章）	Windowsとインターネットの基礎（SNSの安全な利用、著作権、情報セキュア、校内ネットワークの使い方）、文字入力とタイピングの基礎
	2	文書化の基本（第2章1～2）	印刷様式、文字装飾
	3	文書化の基本（第2章3～4）	作表1、画像・図形の利用1
	4	文書化の基本（第2章5～6）	作表2、画像・図形の利用2
	5	文書化の基本	練習問題、レポート作成
	6	表計算ソフトの活用（第3章1～3）	データ入力とワークシートの編集
	7	表計算ソフトの活用（第3章3～4）	四則演算と関数の基礎、作表と編集
	8	表計算ソフトの活用（第3章6）	グラフ表現の要点とグラフ作成
	9	表計算ソフトの活用（第3章5）	条件判定と順位付け
	10	表計算ソフトの活用	練習問題、ファイル管理
	11	プレゼンテーションソフトの活用（第4章1～2）	スライド編集、文字装飾と図形の活用
	12	プレゼンテーションソフトの活用（第4章3～4）	特殊効果（グラフ、スマートアートの活用、アニメーション効果）
	13	プレゼンテーションソフトの活用（第4章5～6）	表・ワードアートの挿入、テーマの設定
	14	プレゼンテーションソフトの活用（第4章7）	資料作成とプレゼンテーションの基礎知識
	15	プレゼンテーションソフトの活用	総合演習、プレゼンテーション

2023度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	心理学 23p103	担当教員 （実務経験）	久原　奈緒子 有 ☑　無 ☐　道内スクールカウンセラーとして10年の実務経験あり		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	心理学はどのような学問か、歴史と研究方法、また、環境へ適用していく上で心はどのように役立っているのか、心の仕組みはどのようになっているのかについて、幅広い心理学の中から代表的なものについて学んでいきます。				
到達目標	心理学の基礎知識、心理学の分類や歴史、脳の働きと心の関係について理解した上で、感覚・知覚・記憶・思考・学習・言語・発達・性格を取り上げ、様々な分野への心理学の応用、人間一般の行動の法則性を修得することを目的とします。				
テキスト・参考図書等	教科書　社会福祉士シリーズ2心理学理論と心理的支援（ISBN978－4－335－61072－1）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験80%、提出物20%にて評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	%	

履修上の留意事項	必ずしも教科書に従って講義を進めるとは限りませんが、事前に一読下さい。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	心理学とは？	心理学の発祥、心理学の領域、他の学問との関連
	2	性格心理学①	類型論、特性論、構造論、局所論
	3	性格心理学②	性格の形成要因
	4	性格心理学③	心理検査、交流分析
	5	心の病理と健康①	心の健康と発達（フロイト、ユング、ピアジェ）
	6	心の病理と健康②	防衛機制、愛着
	7	知覚心理学①	感情と情動、表情と情動、弾力性感覚器官、知覚特性
	8	知覚心理学②	人間のものの見方、見え方、感じ方
	9	発達臨床心理学①	胎児期、乳児期の発達の特徴
	10	発達臨床心理学②	児童期、学童期の発達の特徴
	11	発達臨床心理学③	思春期、青年期の発達の特徴
	12	発達臨床心理学④	中年期、老年期の発達の特徴
	13	学習心理学①	レスポンデント条件付け、オペラント条件付け、動機づけ、
	14	学習心理学②	学習無力感、欲求階層説、IQ
	15	グループワークとまとめ	KJ法

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	哲学 23p104	担当教員 （実務経験）	尾形　敬次 有 ☐　無 ☑　市内専門学校、大学にて哲学・生命倫理学等の教育に30年以上に渡り従事		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	医療者は医療技術者である一方、医療技術の開発者、つまり医学の研究者でもある。無論、この研究は科学一般のパラダイムに従って、つまり科学研究の前提となる態度と方法に従って行われなければならない。また、一般に科学理論に従うことが、誤った治療方法に陥らないための条件でもある。見方を変えると、これに従わなかったため治療成果が挙げられない場合、医療者に弁明の余地はなく、医療者個人が責任を取らなければならない。上のような背景事情を前提にしつつ、講義という形態の中に随時演習を取り入れ、それによって学生が科学の理解を深め、その思考態度を確立するのがこの講義の目的・目標である。				
到達目標	科学的思考態度の習得は中等教育の目標でもあり、そこにおける学生の習熟度に応じて講義の中での演習を行う。したがって授業は随時提出される演習課題への学生の解答をフィードバックさせて行われる。この講義は科学哲学の講義であり、学生が科学者としての態度を身につけることを目標とする。つまり、知識の蓄積ではなく、知識を作り出すための態度の形成が目標である。				
テキスト・参考図書等	特に指定なし				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	授業時間内に行う問いの解答の成績と、学期末の筆記試験を総合して評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	50%	
	その他	%	

履修上の留意事項	知識の集積ではなく、むしろ態度の習得が目標なので、習得すべき個々の学習内容はあらかじめシラバスで提示できるが、時間ごとの講義内容を前もって明示することはできない。下のコマ数は目安に過ぎず、講義はおおむね以下の順序で行われるが、必要に応じて随時、テーマを遡ることがある。科学活動は職業上、自分たちに直接関与してくる。その自覚をもって授業に臨んでほしい。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	科学とは何か	西洋文化としての科学
2	科学と非科学	哲学と科学、宗教と科学、科学とエセ科学
3	近代科学の形成	科学革命と近代科学のパラダイム
4	近代科学の形成	科学革命と近代科学のパラダイム
5	近代科学のパラダイムと相容れない科学	19世紀後半以降の科学の成果。無意識、進化、量子
6	科学的探究の方法	実験と観察、帰納と演繹、仮説演繹法と反証可能性
7	科学的探究の限界	神経ダーウィニズムとセンス・データの限界
8	科学の新たなパラダイム	自己組織化、オートポイエーシス等の仮説
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	実践コミュニケーション 23p105	担当教員 （実務経験）	水尻　恵利伽 有 ☑　無 ☐　市内病院にて作業療法士として5年間勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	医療職におけるコミュニケーションの重要性や医療職に必要とされる、接遇・態度・マナーについてその重要性を理解する。				
到達目標	コミュニケーション手段の種類とその特徴・利用法について理解し、対象者や場面に合わせたコミュニケーションが実践できる。				
テキスト・参考図書等	諏訪茂樹　対人援助とコミュニケーション第2版　中央法規				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	コミュニケーションスキルの問題は必ず誰もがぶつかる壁である。対象者をはじめ他者との関係作りの基本となるものなのでとても重要である。積極的に演習に取り組むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	イントロダクション、対人援助とコミュニケーション①	授業の概要と予定、成績評価、指導と援助
	2	対人援助とコミュニケーション②、コミュニケーションの分類①	指導と援助、コミュニケーションの語源、分類
	3	コミュニケーションの分類②、コミュニケーション効果	コミュニケーション効果、メッセージ、挨拶、敬語
	4	交流分析①	三つの自我、交流パターンの分析、自我状態の確認
	5	交流分析②	私は何者か、エゴグラム、エゴグラム分析
	6	交流分析③	他者から見たエゴグラム、他者から見た自分（フィードバック、ジョハリの窓）
	7	他者から見た自分	Positive　feedback（ほめる、ほめられる）
	8	指示・助言・支持①	指示（ブラインドウォーク）
	9	指示・助言・支持②	助言（助言カード）
	10	指示・助言・支持③	支持（支持トレーニング）
	11	傾聴と共感①	アクティブリスニング、受容
	12	傾聴と共感②	共感
	13	コミュニケーション技法①	促し、繰り返し、明確化、要約、共感
	14	コミュニケーション技法②	共感、開かれた質問、解釈
	15	コミュニケーション技法③、接遇	保証、沈黙、対決、接遇の意味と必要性、尊敬語、謙譲語、丁寧語、実習先への電話がけ、身だしなみマナー

授業科目 （科目ID）	実践コミュニケーション 23p105	担当教員 （実務経験）	小野　直也 有 ☑ 無 ☐ 市内回復期病院にて理学療法士として5年間勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	表現論 23p106	担当教員 （実務経験）	吉田　智子 有 ☑　無 ☐　市内整形外科で理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	スタディスキルズ　すなわち「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」「考える」「感じる」力を高め、専門学校生としての学習方法を身につける。臨床実習に向けて必要な記録作成等を学ぶ。				
到達目標	スタディスキルズを高めていくためのポイントを列挙できる。学校生活をするための、授業受講・予習復習・テスト勉強・スケジュール管理のポイントを列挙できる。報告書（レポート）・プレゼンテーションなど様々な表現の機会のために必要な基本的事項について表現技法を習得する。臨床実習に向けた、実習日誌・メモ・お礼状などの作成ポイントを列挙できる。				
テキスト・参考図書等	知へのステップ　第5版 参考図書：PTOTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	前期定期試験および提出課題により評価
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	50%	
	その他	%	

履修上の留意事項	講義⇒宿題⇒振り返りという、体験型の授業となる。書く力を高めるため、一つ一つの課題を取組むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・スケジュール管理と学習計画	生徒と学生・スタディスキルとは？、目標と計画・シラバスの読み方
	2	授業受講・ノートテイキング	授業の受け方・ノートの取り方
	3	リーディングの基本スキル、テキストの内容を理解しながら読む	テキストの内容を理解しながら読む・疑問点を列挙する方法
	4	要約する・調べる・整理する	要約作成のコツ、比較読みの体験。情報の信頼性や調べ方
	5	文章作成のコツ・意見文と感想文	上手な文章の作成方法。事実と意見・感想の違い
	6	わかりやすい発表（1）	プレゼンテーションの種類・方法　課題の提示　比較読み
	7	わかりやすい発表（2）	スライド・読み原稿の作成方法　動画の撮影方法
	8	わかりやすい発表（3）	プレゼンテーション動画の視聴とフィードバック体験
	9	要点をつかむ	テストに向けた勉強法・要点をつかむコツ
	10	実習直前講座（1）　実習日誌	臨床実習の目的・実習日誌の書き方
	11	実習直前講座（2）　メモ・紹介書	メモの取り方・学生紹介書の書き方
	12	実習直前講座（3）　お礼状	お礼状の書き方　お礼状の内容
	13	実習直前講座（4）　評価場面記録	評価場面報告と考察・感想の書き方
	14	実習直前講座（5）　ビジネスマナーと口頭報告	挨拶の仕方・敬語の使い方・口頭報告の方法
	15	実習直前講座（6）SOAPによる記録	SOAPを使った記録の利点・SOAPによる情報整理の流れ

授業科目 （科目ID）	表現論 23p106	担当教員	小熊　真喜子
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内精神科病院にて作業療法士として勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員	小野　直也
授業形態	演習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 市内回復期病院にて理学療法士として5年間勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	人財育成概説 23p107	担当教員 （実務経験）	柿崎　貴浩 有 ☑　無 ☐　市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年勤務		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	・本校学生としての基本的な心構えを知る。・医療人に必要とされる資質とは何かを諸先輩から話を聞き知る。				
到達目標	・社会人として必要な常識や心構え、人間関係を築くための意志伝達スキルを理解する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	レポート課題により評価する。
	レポート	100%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	・緊張することなく真摯な姿勢で聞く。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	本校の教育理念・学則等について
	2	接遇の意味・学ぶとは	礼儀とは、受講姿勢について
	3	PT・OTに必要な資質とは	社会はどんな若者を求めているか①
	4	PT・OTに必要な資質とは	社会はどんな若者を求めているか②
	5	PT・OTに必要な資質とは	医療現場が求める学生とは①
	6	PT・OTに必要な資質とは	医療現場が求める学生とは②
	7	PT・OTに必要な資質とは	医療現場が求める学生とは③
	8	ビジネスマナーについて	社会人かつ医療職に必要なビジネスマナー
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

授業科目 （科目ID）	人財育成概説 23p107	担当教員	大山　節夫	
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐	道内高等学校で校長を歴任、また北海道の教育行政に長く従事
対象年次・学期	1年・前期	担当教員	伊藤　隆	
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐	市内病院にて作業療法士として20年以上勤務
		担当教員	河原　範毅	
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐	道内高等学校で校長を歴任、また北海道の教育行政に長く従事
		担当教員	大森　達也	
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐	市内・道内の整形外科病院で理学療法士として10年以上、本校理学療法学科教員として3年勤務。スポーツクラブ代表取締役社長に従事
		担当教員	田宮　高道	
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐	道内脳神経外科病院にて作業療法士として10年以上勤務。リハビリテーション科の技師長として従事
		担当教員	前田　健郎	
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐	採用に関するコンサルティング会社の代表取締役社長。道内の多くの大学で各種就職ガイダンス・講演に従事
		担当教員		
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員		
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員		
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐	
		担当教員		
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐	

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	解剖学Ⅰ 23p108	担当教員 （実務経験）	飯島　治之 有 ☑　無 ☐　医学博士を有し解剖学講師として10年以上従事		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	・生物としての代謝と動物としての運動のための人体の構造を系統的に学び理解することを目的とする。				
到達目標	・理学療法士・作業療法士にとって重要である運動器系としての骨・関節・靭帯・筋およびその詳細について学習し、基礎的知識を身につける。 ・基本的な解剖学の名称と各器官の関連性、および人体に於ける3次元的な位置関係について理解する。				
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで 筋学ハンドブック				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	中間試験、前期試験を実施し、合計点が120点未満の者には再試験を実施する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	・学習する範囲・量が膨大なので、講義を集中して受け予習・復習を怠らないこと（怠たると他の科目にも影響します）。私語は慎むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	解剖学概論	解剖学用語、身体各部の名称
	2	骨学概論	骨の種類、組成、基本構造
	3	頭蓋骨1	脳頭蓋、顔面骨
	4	頭蓋骨2	脳頭蓋、顔面骨
	5	脊柱	椎骨
	6	胸郭	胸骨、助骨
	7	上肢1	上肢帯、上腕骨、前腕、手の骨
	8	上肢2	上肢帯、上腕骨、前腕、手の骨
	9	下肢1	下肢帯、大腿骨、下腿、足の骨
	10	下肢2	下肢帯、大腿骨、下腿、足の骨
	11	上肢の関節	肩、肘、手の関節
	12	下肢の関節、（中間試験）	股、膝、足の関節
	13	筋学概論	筋の種類
	14	頭部の筋	表情筋、咀嚼筋
	15	頚部の筋	浅頚筋、舌骨筋群

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	胸部の筋	浅胸筋、呼吸筋
	17	腹部の筋	腹筋、横隔膜
	18	背部の筋	浅背筋、固有背筋
	19	上肢の筋1	上肢帯筋、上腕筋、前腕筋、手の筋
	20	上肢の筋2	上肢帯筋、上腕筋、前腕筋、手の筋
	21	下肢の筋1	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋
	22	下肢の筋2	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋
	23	下肢の筋3、（前期試験）	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　理学療法学科

授業科目（科目ID）	解剖学Ⅱ 23p109	担当教員 （実務経験）	二宮　孝文 有 ☑　無 ☐　道内・道外医科大学にて解剖学講座に所属し40年以上の経験を有する		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30	時間数	60時間
授業目的	・生物としての代謝と動物としての運動のための人体の構造を系統的に学び理解することを目的とする。				
到達目標	・具体的には感覚器、消化器、呼吸器、泌尿器、循環器、神経系、内分泌器について学習し、基本的な解剖学の名称と器官の関連性について理解する。				
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	・前期試験・後期試験のどちらにも合格すること。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	学習する範囲が広範なので、何度も反復して理解を深めること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	解剖学総論	
	2	内臓学総論、消化器	内臓学総論、消化器(1)
	3	内臓学総論、消化器	内臓学総論、消化器(1)
	4	消化器	消化器(2)
	5	消化器	消化器(2)
	6	呼吸器	呼吸器
	7	呼吸器	呼吸器
	8	泌尿器	泌尿器
	9	泌尿器	泌尿器
	10	循環器	循環器総論、心臓、動脈、静脈、リンパ系
	11	循環器	循環器総論、心臓、動脈、静脈、リンパ系
	12	末梢神経	末梢神経系
	13	末梢神経	末梢神経系
	14	感覚器	感覚器(視覚器、平衡聴覚器)
	15	感覚器	感覚器(視覚器、平衡聴覚器)

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	組織(2)	骨・筋
	17	組織(3)	神経組織
	18	組織(3)	神経組織
	19	中枢神経(1)	神経の変性と再生
	20	中枢神経(2)	脳の発生
	21	中枢神経(3)	脊髄
	22	中枢神経(4)	脊髄
	23	中枢神経(5)	脳神経
	24	中枢神経(6)	脳幹
	25	中枢神経(7)	脳幹
	26	中枢神経(8)	小脳
	27	中枢神経(9)	間脳
	28	中枢神経(10)	大脳皮質
	29	中枢神経(11)	大脳髄質・基底核
	30	中枢神経(12)	神経路

授業科目 （科目ID）	解剖学Ⅱ 23p109	担当教員 （実務経験）	高橋　尚明 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて理学療法士として5年勤務経験を有する。 道内大学にて解剖学の教授にあたっている。
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 （実務経験）	松村　博文 有 ☑ 無 ☐ 市内医科大学解剖学講座にて解剖学の教育に30年以上にわたり従事
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	菊池　真 有 ☑ 無 ☐ 市内医科大学解剖学講座にて解剖学の教育に15年以上にわたり従事
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	生理学 23p110	担当教員 （実務経験）	一瀬 信敏 有 ☑ 無 ☐ 博士号（地球環境科学）を有し、市内医科大学生理学講座にて10年以上教育に従事		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	6単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	45	時間数	90時間
授業目的	・人間が生きていくための仕組み「生理学」は、リハビリを学ぶための基礎として極めて重要である。「この仕組みはどのようにすれば回復させることが出来るのだろうか」と考えながら、しっかり学ぶことを目的とする。				
到達目標	・生体におけるホメオスタシスの基本概念および呼吸器・循環器・消化器・生殖器・代謝・内分泌の機能を理解する。 ・神経系は電気信号を用いて情報を伝える。このしくみを学び生体の内外の感覚情報の解析と生体が外界に働きかける運動や行動を理解する。				
テキスト・参考図書等	生理学（標準理学療法作業療法学　専門基礎分野）第5版 これならわかる要点生理学 参考書籍：解剖生理学、目で見るからだのメカニズム、生理学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	筆記試験は前期分（中間試験、前期試験）と後期試験それぞれに合格すること。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	・1回ごとの積み重ねが大事であるので必ず出席して集中して講義を聞くこと。 単なる丸暗記では、臨床においては通用しない。「仕組み」「機序」「作用」を理解するよう心掛けること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性　生命現象　水　ホメオスターシス
	2	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性　生命現象　水　ホメオスターシス
	3	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性　生命現象　水　ホメオスターシス
	4	細胞の構造と機能	細胞　体液　細胞の透過性　静止電位　活動電位
	5	細胞の構造と機能	細胞　体液　細胞の透過性　静止電位　活動電位
	6	細胞の構造と機能	細胞　体液　細胞の透過性　静止電位　活動電位
	7	血液	血液の機能と成分、血球、血漿　生体防御、免疫　骨と骨髄
	8	血液	血液の機能と成分、血球、血漿　生体防御、免疫　骨と骨髄
	9	血液	血液の機能と成分、血球、血漿　生体防御、免疫　骨と骨髄
	10	血液	血液の機能と成分、血球、血漿　生体防御、免疫　骨と骨髄
	11	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節　心電図、心音、心周期
	12	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節　心電図、心音、心周期
	13	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節　心電図、心音、心周期
	14	呼吸とガスの運搬	呼吸器、呼吸運動、肺気量　呼吸ガスと血流ガス　呼吸の調節
	15	呼吸とガスの運搬	呼吸器、呼吸運動、肺気量　呼吸ガスと血流ガス　呼吸の調節

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	消化と吸収	消化器の機能、消化機能の調節
	17	消化と吸収	消化器の機能、消化機能の調節
	18	尿の生成と排泄	排泄、腎臓、尿の生成　腎機能の調節、排尿
	19	尿の生成と排泄	排泄、腎臓、尿の生成　腎機能の調節、排尿
	20	内分泌	ホルモンとは、視床下部－下垂体系、甲状腺　上皮小体、膵臓等
	21	内分泌	ホルモンとは、視床下部－下垂体系、甲状腺　上皮小体、膵臓等
	22	性と生殖	生殖器、受精と妊娠
	23	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能　記憶、脳波
	24	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能　記憶、脳波
	25	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能　記憶、脳波
	26	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能　記憶、脳波
	27	代謝と体温	エネルギー代謝、栄養素の代謝　体温、発汗
	28	代謝と体温	エネルギー代謝、栄養素の代謝　体温、発汗
	29	酸塩基平衡	体液のpH、血液の緩衝系、酸－塩基平衡の異常
	30	酸塩基平衡	体液のpH、血液の緩衝系、酸－塩基平衡の異常
	31	神経I	神経入門・興奮の成り立ち
	32	神経II	興奮の伝導と伝達
	33	神経系	シナプスと神経系
	34	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経の機能
	35	中枢神経系 I	脊髄の機能
	36	中枢神経系II	脳幹各部位の機能
	37	中枢神経系III	随意運動の調節
	38	中枢神経系IV	大脳皮質の機能
	39	感覚I	感覚入門・受容器の性質
	40	感覚II	感覚各論
	41	筋の収縮	筋肉入門・筋収縮の生理学
	42	筋の収縮	骨格筋の張力
	43	筋の収縮	骨格筋収縮のエネルギー
	44	筋の収縮	固有感覚と筋電図
	45	筋の収縮	心筋と平滑筋

授業科目 （科目ID）	生理学 23p110	担当教員 （実務経験）	吉田　香織 有 ☑ 無 ☐ 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 （実務経験）	目黒　文彦 有 ☑ 無 ☐ 道内医療機関にて作業療法士として14年勤務
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	横野　裕行 有 ☑ 無 ☐ 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
		担当教員 （実務経験）	和田　英峰 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員 （実務経験）	水尻　恵利伽 有 ☑ 無 ☐ 市内病院において5年以上作業療法士として勤務
		担当教員 （実務経験）	武田　祐貴 有 ☑ 無 ☐ 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員 （実務経験）	山田　里見 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	生理学実習 23p111	担当教員 （実務経験）	武田　祐貴 有 ☑　無 ☐　市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	・生理学の講義で得られた知識を、実習を通してより深く理解する。・実習器具や実験装置の取り扱いを知るとともに、できる限り詳細な記録、鋭察を心掛け、より深い分析力、考察力を身に付ける。・実験の一連の過程（目的、方法、結果、考察）について、標準的な書式に則って記載する能力を養う。				
到達目標	①生理学の知識を基に、実習を行い、その結果を分析・考察することができる。 ②実習で得られた結果を書式に則って適切に記録・記載をすることができる。				
テキスト・参考図書等	生理学（標準理学療法作業療法学　専門基礎分野）第5版 これならわかる要点生理学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	各実習のレポート評価点により評価。
	レポート	100%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	レポートでは「実習内容を正確に詳細に記述する」、「文献の丸写しではなく、自らの考えを交えて書く」ことを心掛けること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1～5	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田、小野）
	6～7	実習	筋力測定
	8～11	実習	皮膚感覚
	12～15	実習	心電図
	16～19	実習	筋電図
	20～23	実習	呼吸機能

授業科目 （科目ID）	生理学実習 23p111	担当教員 （実務経験）	小熊　真喜子 有 ☑ 無 ☐ 道内精神科病院にて作業療法士として勤務
対象年次・学期	1年・後期	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	和田　英峰 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員 （実務経験）	横野　裕行 有 ☑ 無 ☐ 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員 （実務経験）	水尻 恵利伽 有 ☑ 無 ☐ 道内病院・介護保険施設において作業療法士として5年勤務
		担当教員 （実務経験）	池田　保 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院にて作業療法士として10年勤務
		担当教員 （実務経験）	江戸　香苗 有 ☑ 無 ☐ 道内整形外科病院にて理学療法士として10年勤務
		担当教員 （実務経験）	吉田　智子 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員 （実務経験）	小野　直也 有 ☑ 無 ☐ 市内回復期病院で理学療法士として5年勤務

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	運動学 23p112	担当教員 （実務経験）	吉田　香織 有 ☑　無 ☐　道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	理学療法士、作業療法士は対象者の運動、動作、活動を観察・分析して治療に繋げる。この科目では、そのために必要な人間の正常な運動のメカニズムを理解することが目的である。				
到達目標	・運動に関する原理・原則など、基本的事項を理解し説明できる。・人間の運動の基礎となる、身体の構造と機能を理解し説明できる。・各関節運動の特徴や、運動に作用する筋について説明できる。				
テキスト・参考図書等	基礎運動学　第6版　補訂				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	人間の運動がなぜ、どのように起こるかを学び、理学療法・作業療法の土台となる学問である。履修する範囲が広域ですし力学や解剖学の基礎的知識が不可欠なので、予習、復習を十分に行なうこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	運動学の基礎	オリエンテーション、運動学の概念について学習する
	2	運動学の基礎	オリエンテーション、運動学の概念について学習する
	3	機能解剖：足	足関節の構造と機能について学習する
	4	機能解剖：足	足関節の構造と機能について学習する
	5	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する
	6	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する
	7	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する
	8	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する
	9	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する
	10	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する
	11	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する
	12	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する
	13	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する
	14	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する
	15	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	機能解剖:肩関節	肩関節の構造と機能について学習する
	17	機能解剖:肘関節	肘関節の構造と機能について学習する
	18	機能解剖:肘関節	肘関節の構造と機能について学習する
	19	機能解剖:手	手関節の構造と機能について学習する
	20	機能解剖:手	手関節の構造と機能について学習する
	21	機能解剖:体幹	体幹の構造と機能について学習する
	22	機能解剖:体幹	体幹の構造と機能について学習する
	23	姿勢・歩行	姿勢と正常歩行のメカニズムについて学習する

授業科目 （科目ID）	運動学 23p112	担当教員 （実務経験）	目黒　文彦 有 ☑ 無 ☐ 道内医療機関にて作業療法士として14年勤務
対象年次・学期	1年・後期	担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	人間発達学	担当教員（実務経験）	高橋　義信 有 ☐　無 ☑　市内医科大学にて発達心理学の教育に28年間従事		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	人間の身体や運動、認知がどのように発達するのか理解する。				
到達目標	新生児期から老年期までの各ライフステージの特徴とどのような問題に遭遇するかを理解し、問題を抱えた個人の援助の基礎を会得する。				
テキスト・参考図書等	リハビリテーション医学講座　第2巻　人間発達学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	人間の身体や運動、認知がどのように発達するのかについて理解することは、人間理解の基本となり、対人援助職には必要不可欠な知識となる。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	人間発達とは	人間発達観の変遷と発達研究法
	2	発達の一般原理	発達の方向性、臨界期、遺伝率
	3	身体発達Ⅰ	身体各部の発達の特徴
	4	身体発達Ⅱ	身体発達の評価法、身体発達に関与する因子
	5	運動機能の発達Ⅰ	新生児、乳児期の運動発達の特徴
	6	運動機能の発達Ⅱ	運動機能の発達に影響を及ぼす因子
	7	感覚の発達	新生児の感覚能力
	8	知覚の発達	パターン知覚、奥行き知覚、色の知覚の発達
	9	言語の発達	二歳までの言語発達の道筋、言語障害の原因
	10	知能の発達	知能検査、知能指数、知能に影響を与える因子
	11	青年期Ⅰ	青年期の身体的変化
	12	青年期Ⅱ	青年期の心理的変化と諸問題
	13	成人期	成人期の身体的変化と成人期の諸問題
	14	老年期	老化とは、老化に影響を与える因子、老年期の諸問題
	15	まとめ	

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	病理学概論	担当教員（実務経験）	中村　仁志夫 有 ☑　無 ☐　新潟大学脳研究所で7年間神経病理学研究に携わり、北海道大学医療短大部などで25年以上教員として勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	人体の細胞・組織に病的な変化がどのような原因によって生じ、どのような経過をたどって病態が形成され、どのような疾患として認識されるに至るか、すなわち病気のおこり方を科学的に理解すること、そして代表的な疾患の特徴、疾患概念を把握することを学習の目的とする。				
到達目標	代表的な疾患の特徴及びそれぞれの疾患概念を説明できる。				
テキスト・参考図書等	教科書：医療系学生のための病理学　第5版　（講談社） 参考書：病気の地図帳（講談社）、遺伝子の地図帳（西村書店）、ルービン 「カラー　基本病理学」（訳本）（西村書店）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	42%	毎回提出する講義カード（小課題の演習と理解内容の確認及び質問と回答）についての添削と評価の総計を70点（58%）、筆記試験の点数を50点（42%）とし、合計120点満点で72点（60%）以上を合格点とする。
	レポート	0%	
	小テスト	0%	
	提出物	58%	
	その他	0%	

履修上の留意事項	・教師の板書の筆写のみに固執しないこと。、教科書・参考書をよく読むこと。、解剖学・生理学の知識を常に復習すること。 ・新聞や雑誌の医療関係の記事をよく読むこと。 ・ひとの話を「うのみ」にせず、自分で調べて、よく考えること。・基本的な細胞・臓器・病名などの医学用語を和名のみでなく英語名による習得に努めること。 ・毎回のカードは各自の努力によって作成し、友達の作ったものを引き写す行為は厳禁とする。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	病理学の意義と役割	病理学とは、病理医と生検・剖検、内因と外因、病気の分類、先天性と後天性
	2	遺伝子と染色体	細胞周期、染色体地図、遺伝子病と遺伝病、遺伝病の種類、染色体異常、奇形
	3	組織傷害・変性過程	活性酸素の影響、変性と萎縮、壊死と枯死、成長と老化など
	4	代謝障害・代謝異常	糖尿病、アミロイドーシス、メタボリックシンドローム、黄疸とは
	5	修復と再生	創傷治癒と肉芽形成、肥大の種類、細胞の再生能力など
	6	循環障害	貧血と虚血、外出血と内出血、充血とうっ血、チアノーゼとは、血栓（症）と塞栓（症）、側副血行とは、動脈硬化症、心・肺・肝と循環動態、心筋梗塞、脳梗塞、脳出血、ショックとは
	7	炎症と感染症	急性炎症と慢性炎症、炎症の経過、化学仲介因子、感染の様式、自然抵抗性と獲得抵抗性（免疫）、日和見感染、パンデミックの歴史、院内感染など
	8	免疫異常・アレルギー	細胞性免疫と体液性免疫、アレルギーの分類 自己免疫疾患
	9	移植免疫と拒絶反応	組織適合性、MHCとHLA、拒絶反応とGVH反応、臓器移植の壁など
	10	腫瘍の概念と分類	上皮性と非上皮性、分化度と悪性度、腫瘍素因、転移経路など
	11	腫瘍の原因と診断・治療	がん遺伝子と癌抑制遺伝子、腫瘍マーカー、集学的治療、生検と剖検、組織診と細胞診、がんの予防・早期発見
	12	心臓と肺の疾患	先天性心奇形、狭心症と心筋梗塞、肺炎と肺がん、気管支喘息、慢性肺気腫、石綿肺症など
	13	消化器系、造血器系の疾患	食道・胃・腸の病気、血液疾患、白血病、悪性リンパ腫など
	14	泌尿器系、生殖器系、運動器系の疾患	腎臓病、性感染症、子宮の疾患、骨の疾患
	15	内分泌系、皮膚・感覚器系の疾患	ホルモンの異常に伴う病気、眼の病気、耳の病気

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	リハビリテーション総論 23p115	担当教員 （実務経験）	森泉　茂宏 有 ☑　無 ☐　整形外科・リハビリテーション科医師として大学病院、リハビリテーション病院等にて勤務。医科大学において臨床教員としても10年のキャリアを有する。		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	リハビリテーション医学の概念と各障害に対するリハビリテーションおよび疾患別のリハビリテーションについて学ぶ。				
到達目標	包括的なリハビリテーション領域における作業療法士としての役割を理解する。				
テキスト・参考図書等	最新リハビリテーション医学　第2版 リハビリテーション総論				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	リハビリテーション領域全体の中での理学療法、作業療法の位置づけと役割を学びます。また、障害者の自立支援や就労支援における現状と課題、理学療法、作業療法の役割について学びます。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの定義と歴史、リハビリテーションの起源から地域包括ケアへ
	2	障害の病態生理と評価	障害の分類と評価
	3	チーム医療	リハビリテーション医療の特性
	4	リハビリテーション治療	リハビリテーション評価と方法
	5	理学療法と作業療法	各役割と特徴
	6	疾患と機能障害①	脳血管障害
	7	疾患と機能障害②	運動器疾患
	8	疾患と機能障害③	変性疾患、神経・筋疾患
	9	保健・医療・福祉の連携	リハビリテーション医療と地域包括ケア 障害者の自立支援と就労支援（障害者総合支援法と職業リハビリテーション）
	10	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学の成り立ちと現状
	11	障害者心理と障害受容	障害の受容と障害への適応
	12	身体障がい当事者からみたリハビリテーション	サービスの受け手である障がい当事者本人にとってのリハビリテーションの意味
	13	リハビリテーションと理学療法	リハビリテーション医療における理学療法
	14	リハビリテーションと作業療法	リハビリテーション医療における作業療法
	15	リハビリテーションと言語聴覚療法	リハビリテーション医療における言語聴覚療法

授業科目 （科目ID）	リハビリテーション総論 23p115	担当教員 （実務経験）	目黒　文彦 有 ☑ 無 ☐ 道内医療機関にて作業療法士として14年勤務
対象年次・学期	1年・前期	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務
授業形態	講義	担当教員 （実務経験）	山田　里見 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員 （実務経験）	佐々木　勇輝 有 ☑ 無 ☐ 道内児童福祉施設にて言語聴覚士として6年勤務
		担当教員 （実務経験）	石野　洋祐 有 ☑ 無 ☐ 市内病院にて理学療法士として12年勤務
		担当教員 （実務経験）	今野　靖士 有 ☐ 無 ☑ 頚髄損傷者当事者
		担当教員 （実務経験）	柿崎　貴浩 有 ☑ 無 ☐ 市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年勤務
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	理学療法概論Ⅰ 23p116	担当教員 （実務経験）	吉田　香織 有 ☑　無 ☐　道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30	時間数	60時間
授業目的	理学療法や理学療法士の概要や対象となる障害、領域について学び、理学療法士への動機付けを高めることを目的とする。				
到達目標	・理学療法、理学療法士について説明できる。　・理 学療法士の仕事の内容を把握し、理学療法士になるために何が必要かを考え述べることができる。 ・理学療法の対象となる障害について学び、それによって生じる対象者の不利益を理解し、説明できる。				
テキスト・参考図書等	シンプル理学療法シリーズ　理学療法概論テキスト　第4版　　リハビリテーションビジュアルブック　第2版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	95%	定期試験および提出物により総合的に評価。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	5%	
	その他	%	

履修上の留意事項	自分がどのような理学療法士になりたいか、常に考えながら授業に参加すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの概念について学ぶ
	2	理学療法とは	理学療法の概念について学ぶ
	3	理学療法の歴史1	理学療法の歴史について学ぶ1
	4	理学療法の歴史2	理学療法の歴史について学ぶ2
	5	理学療法士法・作業療法士法	理学療法士法・作業療法士法について学ぶ
	6	障がいとは1	障害について考える1
	7	障がいとは2	障害について考える2
	8	国際障害分類	ICIDHの概念について学ぶ
	9	国際生活機能分類1	ICFの概念について学ぶ1
	10	国際生活機能分類2	ICFの概念について学ぶ2
	11	理学療法の流れ	理学療法評価から治療、再評価のプロセスを学ぶ
	12	理学療法の実際	運動療法、物理療法の概要について学ぶ
	13	理学療法士の職域	理学療法士の働く施設について学ぶ働く
	14	理学療法士の資質	理学療法士には何が求められるか考える
	15	ICFの実践	ICFの考えを活用して、事例検討を行う

履修主題・ 履修内容	16	痛み	痛みとその発生機序について学ぶ
	17	関節可動域	関節可動域とその発生機序について学ぶ
	18	筋力低下	筋力低下とその発生機序について学ぶ
	19	持久力	持久力について学ぶ
	20	協調性	協調性とその障害について学ぶ
	21	中枢神経病変	中枢神経病変の特徴と発生機序について学ぶ
	22	廃用症候群、過用症候群	廃用症候群、過用症候群について学ぶ
	23	理学療法における管理	理学療法における管理について学ぶ
	24	理学療法にかかわる制度	診療報酬や介護保険について学ぶ
	25	感染予防対策	医療職に求められる感染予防について学ぶ
	26	各疾患の理学療法1	理学療法の対象となる代表的な疾患とその理学療法の概要について学ぶ1
	27	各疾患の理学療法2	理学療法の対象となる代表的な疾患とその理学療法の概要について学ぶ2
	28	各疾患の理学療法3	理学療法の対象となる代表的な疾患とその理学療法の概要について学ぶ3
	29	各疾患の理学療法4	理学療法の対象となる代表的な疾患とその理学療法の概要について学ぶ4
	30	まとめ	1年間のまとめと振り返り

授業科目 （科目ID）	理学療法概論Ⅰ 23p116	担当教員	浜本　浩一
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員	竹中　謙将
授業形態	演習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
		担当教員	江戸　香苗
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務
		担当教員	武田　祐貴
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員	元木　純
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員	横野　裕行
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内・外の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員	小野　直也
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内回復期病院にて理学療法士として5年間勤務
		担当教員	吉田　智子
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	山内　真帆
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内の病院に理学療法士として8年勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	基礎理学療法 23p117	担当教員 （実務経験）	横野　裕行 有 ☑　無 ☐　道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30	時間数	60時間
授業目的	理学療法士の仕事の一部を見学・体験し、理学療法士の役割の理解と動機付けとすることを目的とする。 前期は医療者としての接遇や心得やコミュニケーション手法、後期は基本的なバイタルサインの測定方法について学ぶ。				
到達目標	① 理学療法士の基本的な仕事や役割を理解し、理学療法士になるために自ら能動的な行動ができる。 ② 基本的なバイタルの理解・測定やコミュニケーション手法を習得できる。				
テキスト・参考図書等	基礎と臨床がつながるバイタルサイン				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	35%	日々の授業に取り組む姿勢について、ルーブリック評価を用いて評価する（前期は50%、後期は80%）。 試験については、前期はコミュニケーション(50%)、後期はバイタルの実技試験(20%)にて評価する。 前期、後期の点数を合わせて60%以上を合格とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	25%	
	その他	40%	

履修上の留意事項	医療関係職種になることを常に意識すること。 施設見学など、学外活動を多く行う。また、医療職としての実技も行うことから、社会人としてのマナーを身につけるための行動をとること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーション
	2	理学療法の基本	基本的態度・触り方・人の体の動かし方・コミュニケーションについて学ぶ
	3	理学療法の基本	基本的態度・触り方・人の体の動かし方・コミュニケーションについて学ぶ
	4	理学療法の基本	基本的態度・触り方・人の体の動かし方・コミュニケーションについて学ぶ
	5	標本館・施設見学①	標本館見学・施設見学・見学内容をグループでまとめ、発表する
	6	標本館・施設見学①	標本館見学・施設見学・見学内容をグループでまとめ、発表する
	7	標本館・施設見学①	標本館見学・施設見学・見学内容をグループでまとめ、発表する
	8	標本館・施設見学①	標本館見学・施設見学・見学内容をグループでまとめ、発表する
	9	医療学生としての心得 ～グループワーク・発表～	医療学生としてどのような行動をとることが適切かを学び、発表する
	10	医療学生としての心得 ～グループワーク・発表～	医療学生としてどのような行動をとることが適切かを学び、発表する
	11	医療学生としての心得 ～グループワーク・発表～	医療学生としてどのような行動をとることが適切かを学び、発表する
	12	コミュニケーション ～講義・実技～	コミュニケーション手法について学び、習得する
	13	コミュニケーション ～講義・実技～	コミュニケーション手法について学び、習得する
	14	コミュニケーション ～講義・実技～	コミュニケーション手法について学び、習得する
	15	コミュニケーション ～講義・実技～	コミュニケーション手法について学び、習得する

	回数	履修主題	履修内容
	16	車椅子体験 ～実習・グループワーク・発表～	実際に車椅子乗車者・操作者の体験をすることで、操作方法や危険性を学ぶ
	17	車椅子体験 ～実習・グループワーク・発表～	実際に車椅子乗車者・操作者の体験をすることで、操作方法や危険性を学ぶ
履修主題・ 履修内容	18	車椅子体験 ～実習・グループワーク・発表～	実際に車椅子乗車者・操作者の体験をすることで、操作方法や危険性を学ぶ
	19	施設見学②	施設見学・施設見学後の内容をグループでまとめ、発表する
	20	施設見学②	施設見学・施設見学後の内容をグループでまとめ、発表する
	21	施設見学②	施設見学・施設見学後の内容をグループでまとめ、発表する
	22	施設見学②	施設見学・施設見学後の内容をグループでまとめ、発表する
	23	施設見学②	施設見学・施設見学後の内容をグループでまとめ、発表する
	24	施設見学②	施設見学・施設見学後の内容をグループでまとめ、発表する
	25	バイタルサイン ～講義・実技～	バイタルサインの理解・測定方法を学び、習得する
	26	バイタルサイン ～講義・実技～	バイタルサインの理解・測定方法を学び、習得する
	27	バイタルサイン ～講義・実技～	バイタルサインの理解・測定方法を学び、習得する
	28	バイタルサイン ～講義・実技～	バイタルサインの理解・測定方法を学び、習得する
	29	バイタルサイン ～講義・実技～	バイタルサインの理解・測定方法を学び、習得する
	30	バイタルサイン ～講義・実技～	バイタルサインの理解・測定方法を学び、習得する

授業科目 （科目ID）	基礎理学療法 23p117	担当教員 （実務経験）	山内　真帆 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院に理学療法士として8年勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目 （科目ID）	理学療法研究法Ⅰ 23p118	担当教員 （実務経験）	横野　裕行 有 ☑　無 ☐　道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	・理学療法において研究とは、臨床で起こる様々な問題を解決するためのプロセスである。 ・本科目では研究の意義を理解すること、医学的な英文への抵抗をなくすこと、統計処理について理解すること。				
到達目標	・研究の意義を理解し、自ら疑問を解決しようと行動できる ・統計の考え方の初歩を理解できること				
テキスト・ 参考図書等	なし				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	ポスター発表50点と定期試験100点(50点換算)にて評定し、合計60点以上を合格とする。 定期試験については、本試験で100点中60点未満を再試験とし、再試験で60点以上を満たしたものは60点(換算上は30点)とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	50%	

履修上の 留意事項	自ら能動的に調べる、考えることが必要な授業です。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	研究とは・研究的思考法とは
	2～4	研究の流れを体験しよう	自身の疑問を調べる・ポスター発表する
	5	疑問を研究ではどう調べるのか	クリニカルクエスチョン・PICO・リサーチクエスチョン・情報検索方法を学ぶ
	6～9	知っている専門用語について調べてみよう	理学療法に関わる自身の疑問を調べる・ポスター発表する
	10	文献について知ろう	文献の種類・検索方法を知る
	11	文献について知ろう②	文献の構成・内容、有意差とは何か知る
	12～15	疑問を調べてみよう	自身の疑問をから、文献を調べ、調査結果をスライドにまとめる・ポスター発表する

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	理学療法評価法Ⅰ 23p119	担当教員 （実務経験）	浜本　浩一 有 ☑　無 ☐　道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30	時間数	60時間
授業目的	理学療法にとって「評価」とは、「患者さんにとって、治療を必要とする場所を分析・明確化する」、「自分が施した治療の効果を確認、治療方針を再検討する」という意味がある。そのため、本科目では、以下4項目を目的として掲げている。1. 授業を通じて、理学療法士の職業内容・イメージをより具体的に持つ、2. 解剖学・運動学で学習した内容と、評価の意義・方法を関連付けて考えられるようになる、3. 方法の説明・リスク管理・配慮を含めた正確な評価手技を実施出来る（実技試験）、4. 評価の目的・意義や評価結果から考えられる事を説明・記述出来る（定期試験）				
到達目標	・理学療法評価について理解する。 ・肢長周径・関節可動域測定・反射検査の基本的な検査測定手技を習得する。				
テキスト・参考図書等	理学療法評価学　改訂第6版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	・筆記試験、実技試験（前後期の合算にて成績判定）
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	・解剖・運動学の復習をして授業に臨むこと。・授業は触診を行いやすく、動きやすい服装を用意すること。 ・授業態度の不良な者は厳しい対応をする。 ・医療人としての適正及び態度が不適な者、学習意欲のない者は授業への参加を認めない。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	評価の意義・流れ	評価を学ぶにあたって、その意味するものを学ぶ
	2	評価の意義・流れ	評価を学ぶにあたって、その意味するものを学ぶ
	3	問診・視診・触診	問診・視診の目的と内容について学ぶ
	4	問診・視診・触診	問診・視診の目的と内容について学ぶ
	5	問診・視診・触診	問診・視診の目的と内容について学ぶ
	6	形態計測	形態計測の中の肢長について学ぶ
	7	形態計測	形態計測の中の肢長について学ぶ
	8	形態計測	形態計測の中の周径について学ぶ
	9	形態計測	形態計測の中の周径について学ぶ
	10	形態計測の実技演習	形態計測の中の肢長・周径について学ぶ
	11	形態計測の実技演習	形態計測の中の肢長・周径について学ぶ
	12	形態計測の実技演習	形態計測の中の肢長・周径について学ぶ（チェックテスト）
	13	形態計測の実技演習	形態計測の中の肢長・周径について学ぶ（チェックテスト）
	14	形態計測の実技演習	形態計測の中の肢長・周径について学ぶ（チェックテスト）
	15	反射検査	深部腱反射・病的反射について学ぶ

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	反射検査	深部腱反射・病的反射について学ぶ
	17	反射検査の実技演習	深部腱反射・病的反射について学ぶ、チェックテスト
	18	反射検査の実技演習	深部腱反射・病的反射について学ぶ、チェックテスト
	19	関節可動域テスト	上肢の関節可動域テストについて学ぶ
	20	関節可動域テスト	上肢の関節可動域テストについて学ぶ
	21	関節可動域テスト	下肢の関節可動域テストについて学ぶ
	22	関節可動域テスト	下肢の関節可動域テストについて学ぶ
	23	関節可動域テスト	体幹の関節可動域テストについて学ぶ
	24	関節可動域テスト	体幹の関節可動域テストについて学ぶ
	25	関節可動域テストの実技演習	上肢・体幹・下肢の関節可動域テストについて学ぶ
	26	関節可動域テストの実技演習	上肢・体幹・下肢の関節可動域テストについて学ぶ
	27	関節可動域テストの実技演習	上肢・体幹・下肢の関節可動域テストについて学ぶ、チェックテスト
	28	関節可動域テストの実技演習	上肢・体幹・下肢の関節可動域テストについて学ぶ、チェックテスト
	29	関節可動域テストの実技演習	上肢・体幹・下肢の関節可動域テストについて学ぶ、チェックテスト
	30	関節可動域テストの実技演習	上肢・体幹・下肢の関節可動域テストについて学ぶ、チェックテスト

授業科目 （科目ID）	理学療法評価法Ⅰ 23p119	担当教員 （実務経験）	武田　祐貴 有 ☑ 無 ☐ 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	山内　真帆 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて理学療法士として8年間勤務
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　理学療法学科

授業科目（科目ID）	日常生活活動Ⅰ 23p120	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑　無 ☐　道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	授業を通して、日常生活活動の基本について理解する。さらに、自らの生活を鑑み、運動・動作・行為の観察を行い、基本的な介助技術を身に付ける。演習を通して、福祉用具や移動補助具を実際に使用して学習する。				
到達目標	①日常生活活動の意義・重要性を説明できること、②基本動作の介助方法を実施できること、③移動補助具の名称や使用方法を説明できること。				
テキスト・参考図書等	PT・OTビジュアルテキスト　ADL 姿勢と動作　第3版　ADLその基礎から応用				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	筆記試験において、100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	演習時は動きやすい服装で受講すること。本科目の授業では暗記力よりも、応用力・想像力が重要となる。普段の生活で、どのような活動、動作がなされているかを常に意識するよう心がけること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	
	2	1日の生活活動	1日の生活を分析する
	3	ADLの概念	ADLとは何か学ぶ
	4	姿勢と動作の概念	姿勢とは何か、動作とは何か学ぶ
	5	姿勢と動作の概念	姿勢とは何か、動作とは何か学ぶ
	6	基本の姿勢	基本の姿勢を学ぶ
	7	基本の姿勢	基本の姿勢を学ぶ
	8	起居動作の観察	起居動作を行い、観察する
	9	起居動作の観察	起居動作を行い、観察する
	10	身のまわり動作	様々な条件で身のまわり動作を実施する
	11	身のまわり動作	様々な条件で身のまわり動作を実施する
	12	基本動作の操作	基本動作を介助する方法を学ぶ
	13	基本動作の操作	基本動作を介助する方法を学ぶ
	14	歩行補助具・車椅子	杖・歩行器・歩行補助具・車椅子の種類、構造・使用法について学ぶ
	15	歩行補助具・車椅子	杖・歩行器・歩行補助具・車椅子の種類、構造・使用法について学ぶ

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	臨床見学実習 23p121	担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑　無 ☐　市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	・臨床見学実習の意義は、病院（施設）の見学を通じて今後の学内における知識・技術習得をより効果的かつ有意義に行えるよう意欲を高めることにある。また、社会の中における理学療法士の役割と責任の概要を理解し、把握することにある。				
到達目標	a）専門職としてふさわしい態度・行動について認識する。b）医療関連職種に限らず、保健・福祉などにおける理学療法士の役割・分担について認識する。c）患者・障害者（児）の持つ諸問題を認識する。d）病院（施設）、あるいは理学療法士が関わる事業の目的・役割およびその流れについて理解する。e）臨床見学を通じて、学内で履修した知識及び技術を確かめ第2学年への学習意欲をさらに高め、知識技術習得の目的を具体的にする。				
テキスト・参考図書等	臨床実習の手引き				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	実習前セミナー出席状況、臨床実習の出席状況、実習態度、実習報告会の出席状況、提出物等を併せ、総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	80%	

履修上の留意事項	初めての臨床見学実習である。緊張するかと思うが、有意義な実習とするためには、自ら目標を明確に持ち、積極性を持って実習に望むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1～23	1. 臨床実習	各実習施設に赴き実習指導者の監視下・指示のもと、臨床場面の見学、対象者とのコミュニケーション等を通して学ぶ。

授業科目 （科目ID）	臨床見学実習 23p121	担当教員	浜本　浩一
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務
対象年次・学期	1年・後期	担当教員	吉田　香織
授業形態	実習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	竹中　謙将
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務
		担当教員	江戸　香苗
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務
		担当教員	吉田　智子
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	武田　祐貴
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員	横野　裕行
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員	山内　真帆
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内の病院にて理学療法士として11年間勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐